

令和2年第11回 全員協議会要点記録

日時 令和2年8月7日 14:55～16:12

出席者 議員9名

町長、副町長、阿部総務財政課長、大川企画課長、森本町民課長、
高橋産業振興課長、酒本産業振興課参事、齊藤議会事務局長

越前谷議員

それはコロナの関係？

町長

いや、いろいろでしょう。だから今過疎法も改正の中で、今噂話で決定はしておりませんが、後志で下手すれば4つ過疎が外れるんじゃないかって。というのがニセコ、赤井川、留寿都、共和、この4つが過疎法の過疎地域から除外される可能性がある。相当泡食っています。■は100億も金があるから。5年くらい外れてもいいって。■の前ではしゃべりませんが。それは冗談として、本当にこれ外れたら何も仕事できません。どこも。■代議員も相当皆さんからプレッシャー掛けられているみたいなので。このコロナ騒ぎで、この議論が延び延びになってそのまま延長ってなってくればいいなって皆さん話してましたけど、うちが外れるっていうことはないので、心配はしていないんですが、ただ、来年度以降、過疎債も額が削られたり、小泉政権下での三位一体改革じゃないですけど。1億1億って削減されたりしたら、もうお手上げ状態。そういう状況なので、御承知おきを願いたいと思います。

次にエネルギー勉強会、先ほども冒頭、若い世代と役場の職員も知っている必要があるよねということやるんですが、この間の情報ですと、このコロナ騒ぎで、私みたいな性格の首長がいて、先手必勝だと、早く勉強会、その文献含めて、勉強会に手を挙げようじゃないかというところが、全国で二つくらい、どうもありそうだと。それで、私は常々言っていますけど、一番じゃないと駄目だと。二番じゃ駄目なんだと。っていうのは、一番のやはり国が町に対する、村度といたら幸坂さんに怒られちゃうかもしれないが、やはり違うんですよ、一番と二番じゃ。だから、ここを、それで急遽、今日、若手の勉強会を本当はお盆明けにやろうと思っていたんですけども、そういう噂を聞いたものですから、盆前にやって、盆明けに議員の皆さんと最初から勉強会に仲間に入っていた、産業団体の幹部の皆さんで、国入れないで、合同で、ちょっと協議をしたいと、まあ、勉強を続けるということで、今、原発のゴミを受けるって手を上げるんじゃないかって、文献調査を・・・まだ、勉強会を続けようじゃないかと、この議論を盆明けにやりたいなど、そこで、ある程度、方針が決まったら国に申し立てをしていきたいなと思っています。

ただ、簡単でないですし、まあそうなったとしても、いろんな手続きが道との絡みもあるでしょうし、で、道は道で「余計なことしないでくれ」って前にも副知事がここにみえてます。勉強会するのに勉強するっていうのは副知事、何考えてるのと。誰も手を挙げているんじゃないんだよと。エネルギーっていうのは、何のエネルギーも国策でいろいろやっていますよねと。再生可能エネルギーだけがきれいで、原発が汚いのかと。それはいろんな考えがありますが、それを全体で勉強会を去年からやって、その中の一つとして、入り口があれば出口がある。原発やれば出口もある。

	<p>その勉強を今しているだけの話ですよと。その結果、皆さんが、その後どう判断するかというのは、また別な話で。という話で、知事にもそういう話をしておりますし、そういう意味で、幅広く、昨年から勉強会を継続してやっていますので。寿都町の方針として、どうあるべきかというのも、盆明け、なるべく早い時期に計画したいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。</p> <p>私からは、以上です。</p>
議 長	はい、友山議員。
友山議員	盆明けというのは、8月の具体的に日程考えているんでしょうか。
町 長	20日過ぎ。24日の週。
友山議員	若手の勉強会の、若手というのは、どの範囲。
町 長	<p>今日なんですけど、若手というのは、だいたい40から50過ぎの人もいるし、30代の人もある。商工会、漁協、水産加工協、建設協会、あと物産協会と商工会って大体同じようなメンバーなんで、そこは入り乱れて。メンバー上がってきているのが、20人くらい。どちらにしても、これから寿都をリードしていく、そのメンバーがどういうふうを考えているのかも含めて、考えているというよりやはり説明をちゃんと町も、今、勉強会でこういうことを勉強してましたよと。</p>
越前谷議員	今日は、国からも来るんですか。
町 長	来ます。
友山議員	すみません。
議 長	友山議員。
友山議員	<p>そしたらその、8月の盆明けの時に経済界とかそっちの方と議員も集まって、そこで、手を挙げるかどうかの、それを(同意を)得る訳ではないんですね。</p>
町 長	いや、できれば、出さないと、他所に先手を打たれたら、もう一番はとれません。

議 長	それは、文献調査でしょ。
町 長	文献調査です。なにも、最後の工事までやってこれからずっとやるんですよってことじゃない。文献調査。
友山議員	それを町民に分かりやすく。文献調査というのはどの程度の調査。それに手を挙げて、寿都町は文献調査をしますと言ったときには、具体的にどういう形になってくるんでしょうか。
町 長	ざっくばらんな話、文献っていったって、ほとんどないはずですよ。地層ですから、調べてみないと。ただ、寿都は、昔、鉱山がありましたよね、ただ、ここの下は分かるかもしれないけど、ここから外れたらちょっと分からないと思いますけど。そういう、いろんな書物、寿都の周辺で残っていれば、地層がどういうふうに文献で出ているか、ただ実際の話、やはりボウリングしないと地層というのは分からないと思うんですね。この間の説明で行くと、大体、文献で2年くらい、その後、概要調査ってボウリング、それはそれなりの年数がかかります。そして、まだ、結論出すのに、この間の説明では、20年くらいかかると。我々誰も、ここで生きていていったら、一人くらいしかいない。我々の世代じゃないんですよ。
	ただ、今、しつこいようですけど、このコロナで、国からも来る金がほとんど今までと同じのは無理でしょうと。だから、平成14年、私が町長になりたての頃、金一銭もない。借金も払えない。給料も払えない。こういう話がまた来る可能性がある。何も手を打たなかったらなるでしょう。風車だってあと5年がいいところなんです。それなりの3億何某、4億っていうのは。ふるさと納税だって、世の中の流れでどうなるか分からない。そうなったら、何やりたい、かにやりたいっていったって、出るものなかったらできないんです。ここを、ただ金欲しさに云々ばかりじゃなくて、国の政策も含めて、寿都はどう生きていくことが地域の幸せに繋がるのか。皆さんで勉強しましょうと。誰も今、大上段で核のゴミを受けますなんて、私もこれっぽっちも思っていませんし。勉強してから、皆さんと協議をしましょうと。その中で、止めようってなったら止めればいいし、やろうって皆さんの多数がいけば、やる方向でいけばいいし。非常にタイムリーな私は話題って。なおかつ、説明会の中でも文献調査やりますとただで20億、その後概要調査やったら70億、これってやはり魅力ですよ。ただ魅力って金が先になっちゃうと「片岡何考えているんだ」と「金のために地域売るのか」って話になっちゃうんで、そうならないようにするのは、やはり冷静に勉強会を開いて皆さんで勉強しましょうって私は思っている。だから多分、そういう手続きをしたらメディアがわーっと来ると思っています。そのときに私はどう答えるか。誰も最後のケツやるなんて言

ってませんと、うちはエネルギー、風車、陸上・洋上含めて、これは地域のエネルギーとして活用して、これは一つの政策として、議員の皆さんとも議論しながら、推進していきましょと。この核の関係もすぐ目の前に原発がある、最後は日本のどこかで処理しなければならない。それは、核があるために、これも合わせ技で勉強しましょと。バイオマスもそうだ、いろんなエネルギーについて、今まで勉強会をやってきた。その中で、有効なものを取り入れて少しでも人口減対策、地域産業の振興、それに前向きに勉強しながら取り組んで、少しでも町の活気を維持していきましょと。これをやって何が悪いんですかと。私はそういうふうに答えるつもりでいます。だから、全面的に私のところに来ると思いますけど、そこは毅然とした態度で、勉強して何が悪いと、言葉は選んでしゃべらないとならないですけど、物食ったら当然糞出るべと、糞は俺知らねって、あちこちにぶん投げていいのかって、本当は言いたいくらいだけと、そういうえげつない話したら、反発があるから。

越前谷議員

ちょっといいですか。

議 長

越前谷議員。

越前谷議員

事実はそういうことなんだけどもね、ただ、こういう問題については、放射線の調査っていうのか、文献調査とか。そのことがイコール、それを認めたみたいな、そういうふうなニュアンスでよくとられるので、そういうふうなことがないような、広報にでも何でもやはり説明というのが、やっていった方がいいと思うんですよ。やったことが、イコールにつながるっていうことではなくて、実はこうこうこういうことで文献調査というのは始めてみたんだという、そういう説明というのはしておいた方がいいと思うんです。

町 長

当然しなきゃならないと思いますし、ただ、私はですね、勉強会するのに、町民に伺いを立てて勉強会するっていったら返って面倒な話になるので、ここは、町を動かしている行政、議会、産業団体その要職にある人が皆で総意で、そうしよと。その後、当然、こういうことで、勉強会スタートしました、行政報告会・町政報告会、これだけの問題じゃなくいろいろなものも含めて、やるべきだとは思っている。

越前谷議員

ただ、部分的にあれでしょう、やはりこういう話っていうのは広がっていくものだから、やはり誤解を受けないような形の説明というのが、必要だと思う。そのことによって、ああなんだというのも出てくるんだろうし。

町 長	<p>だから、昨年、第8次振興計画するに当たって、いろいろな産業振興含めて勉強会を第8次振興計画に織り込む意味でもやりましようってスタートして4回、この前、5回目やらせていただいて、この流れを町民にはまた町の方から説明しないとならない。その中で、耳障りのいいものと、あまり耳障りのよくないものも当然その中であって、洋上の話だって、これが、もし、まとまったとしても、黙って8年から10年かかるんです。金になるのに。今すぐ金になるんじゃないんです。陸上については、今、磯谷でやっている、あれは固定資産税が多分完成していませんから、完成したとして、蘭越とうちにどれだけの固定資産税が来るか、それだって実質固定資産税入れば、交付税が7割か削減になる、だから3割しか価値ないんです。協力金が今のところ500?来ています。陸上については、やはり額は低いんですよ。洋上については、一説によると0.5パーセント売り上げの、これは協力金出す方向で検討されている。そうすると仮に70万キロくらいで計算すると2億から2億5000万くらい単価によりますけど。仮に30円で売買されたとして、国がもっと下げたいと1円でも2円でも下がれば、その協力金というのも下がる。これが億単位。4漁協仮に割り算すると1漁協、4000万から5000万、協力金が入ってくる。これだって、あんまり変な言い方しちゃったら、みっともないし。秋田なんて揉めてひどい、利権絡みで。隣の町同士喧嘩して。業者同士が喧嘩しちゃって。3000億、4000億の事業だから。どこの大企業もやりたくて。そうならないように、どう仕切っていくかということも大事ですし。</p>
議 長	<p>友山議員の言った、文献調査というのはどういうものって、文献調査のメニューとかそういうものも例えば期間的にどの位かかるとか、そこまでいけばもう文献調査ってなると、すぐ核の廃棄物の誘致に動き出したみたぐ、メディアバッシングが必ず来ます。だから、どうメディア対策していくかということもとても大事なことだし。文献調査メニューっていうのはそもそも何なのかって、今のところ誰も分からない。そういうふうなものもきちんと提示して、何なのって町民に聞かれたときに、文献調査ってこういう程度のものですよってくらいに言えるような状況がないと中々、難しいと思うんです。それを用意した方がいいと思います。</p>
幸坂議員	<p>いいですか。</p>
議 長	<p>はい、どうぞ。</p>
幸坂議員	<p>今まで、勉強会出ていましたけど、やはり一番気になるというか、違くなって思うことは、結局、原発を作ったら廃棄物が出るっていうのは分か</p>

っていて、じゃあ今ある原発は出た廃棄物はどうするのっていういい方をするんだけど、じゃあ国は全然、作ったことに反省がないと思うんです。この前の講師の人たちにも私も強い口調で言いましたけど、何ていうか、どっかで処理しなきゃなんないでしょって、なんかこっちに押し付けられてる感じが、私は凄い違和感なんですよね。全然反省がないということがおかしいなと思います。

こう、進んでいくと段々そっちの方向に進んでしまうので、なんか、町民の幸せとそれとはちょっと一緒に考えられない問題だなと私はずっと思っています。

町 長

これは、政治家の責任です。すべて。決めたのは政治家ですから。そして福島原発、誰も責任をとっていません。これが今の日本の姿だと思います。ただども原発を取り入れた諸外国の決まりは、そこの自国で最終処分をしましょうっていう、これは決まりました。これは勉強会の中でもありました。だから、どこかでやらないといけない。どこかで本当は頭下げてほしいですけど、多分最後まで今の議員さんは下げる人は一人もいないと思う。そのことよりも私は、再生可能エネルギーもそうですし、このエネルギーなくして、やはり生活って成り立ちませんよ、何の生活も。その一つの原発、そして最終処分場のこと、私は寿都だから、皆さんに訴えて、ここが受ける、受けなくて、ちょっと目を覚ましてみましょうよと、そういう役割をすることによって、その役割の対価として私は、御褒美があったっていいんじゃないかって思っています。

これが、地域のまちづくりにより有効に使われるのであれば、住民の幸せにもなるし、結果としてそれ以上、進まないかもしれませんし、ここは、後の、これからの議論だと思うんです。ここを明確に私も含めて議員の皆さん、また産業団体の皆さんもしっかりした思いを共有して、勉強会に入るんだよという思いがないと、私はいけないんじゃないかなと。ただ答えるのは私が全部、答えますメディアに。先生方も産業団体も了解したんだから、皆しゃべってくれなんていいません。全部私がやります。これは私の責任として、やるべきと思いますし。だからあんまり多くを語らないで今言ったような話を通していこうかなと。あと、バッシングすればいいし、ただ、住民の皆さんは、それに惑わされることなく、寿都の役割分担の中で、再生可能エネルギーも前浜にこれから早く実現して、その対価として頂くものは頂くし、この勉強も対価として頂くものは頂こうと。これ、再生可能エネルギーがあるからいいんです。原発のゴミの話しかなかったら、金欲しいからやってるんだって、そうしか言われかねない。トータルですから。

沢村議員

いいですか。

議 長	はい、沢村議員。
沢村議員	<p>結論何てまだまだ先になる。問題は、私も自分自身で整理全部つけている訳ではないんだけど、まず一つは、寿都町の8次総合計画含めて、将来寿都がどうあるべきかということとあわせて、財政がどうあるべきかというのが一つ。</p> <p>2つ目は、再生可能エネルギー、洋上風力これは、案を含めて南後志を含めたところがどういうイニシアティブで、どういう形態で。洋上風力には何を求めてどう対応するかということが、まだ書類もない。それはそれでいいんだけど。</p> <p>3つめは、エネルギーの勉強会ね、これは大いにやっていった方がいいと。その中でやはり一番、議論になって町民を巻き込んでいいかどうか、寿都の将来あるべき姿がどうあったらいいかというところで、ようは原発の高レベル廃棄物の処理場を寿都にしなければならぬということを、果たしてどうかっていうこともあわせて、私はまだまだ勉強していかなければならないというふうに思っています。4つの視点からきちんと一つずつ段階を踏んで、議論しながら整理していこうというふうに思っているところなんです。まだ、結論はまだまだ難しいなって。</p>
町 長	<p>ですから、今日の職員研修会、また産業団体の若手の研修会は、今、沢村議員がお話した、今後の寿都の人口形態とこのままでいったらどういう形態が想定されますと、で、財政状況がどういうふうになりますかっていう説明を先にします。その後、私が冒頭ちょっと前段の今のエネルギー関連、洋上も含めたちょっとした話、あと、コロナでこれだけ被害を受けている話、今の寿都の状況、その後、大川課長の方から説明、人口形態、財政状況をしゃべった後に特化して、高レベル放射性廃棄物のお話を。私の最初の冒頭のあいさつは、これでお終いじゃなくて、再生可能エネルギーの勉強会も役場の職員ともしますし、また、若手の人たちもする。これだけ特化してやると、さも、この金が欲しいがために皆集めて、やったんじゃないかって言われたってしょうがない。そうじゃなくて、やはり洋上含めて、今の、バイオマス、ボイラーの話もそうですし、そうやって地域にどうやって産業とエネルギーとを結びつけながら、これを形作って、少しでも就業の場が増えていく、地道な中で育てていくっていう話は、皆さんにしていきたいなと思っています。</p>
幸坂議員	はい。
議 長	幸坂議員。

幸坂議員

勉強会を進めるに当たって、この前私たちが聞いたような話を聞くのは、片手落ちだと思うんです。今、町長はいろんな勉強会をしたいとおっしゃったんですけど。原発の廃棄物を自国で処理するってそのこと自体が日本で処理するっていうのは一体どういうことなのか。フィンランドと全然地質が違いますよね。フィンランドは本当に動いたことのない大地というかそういうところに、穴を掘って埋めるということになっているんだけど、でもそれを見に行った、原発を進めた小泉首相までが、日本で原発はやはり間違いだったと言っているという。責任をどうとるのって私は言いたいんですけど。そういっている人もいるくらいなのでやはりフィンランドの今進んでいる状態だけの学習では、ちょっと片手落ち。今の火山列島の日本の中でこれを作るっていうことが一体どうなのかっていうこともきちんと私は学習の場をとってほしいと思います。

町長

幸坂さんのおっしゃるとおりで、前に資料で今までの火山の色塗っているのありましたよね、それでマップを最終処分場に可能性のある、あれだって、ただマップ作っただけで実際に地質の調査した訳でもないし、全国の何か所か、これから手を挙げるところもあると思うんです。そこで実際に文献、なおかつ概要調査で、やる中でいろんなことが分かると思うんです。これはやはり無理だよという話になるのか、そうなったときに金出してもフィンランドだとか、世界の協定は協定としても、日本では無理だとなったら、その分、金出すからフィンランドの方で受けてくれないかだとか、そういう議論になるかもしれない。調査した結果。まずは、自国でやると世界のルールで決まった訳ですから、そこを何も最初からしないで、危ない、危ない、受けないって、そんな無責任な話はできないと思うんです。ここをちゃんと調査をした中で、これから政府がどう判断していくか。諸外国に求めるのか。自国で安心安全なデータをとるのか。それもしないで危ないという議論はすべきじゃないと思います。

どこも手を上げていない、勇気をもって文献そういう調査に協力しましょうと、そこで日本の国の一助になれば、他所も追随して手を上げてくる場所が出てくると私は思っている。だから、私は、一番じゃなきゃ駄目だと。面積的にも多分、想定するのは私の頭の中では、できるのはあそこら辺しかないなとほかは地層調査なんか難しいだろうなと思っています。勝手にね。ただ国がどう考えるかはちょっと違いますけどね。だから、まだまだ、面積もあって有利というところかそういうところが日本には数か所あると思います。そこをうまく国の今の弱いところについて、それを一つのビジネスチャンスとして手を上げましょうっていう思いも強いんです。これ、90億稼ぐっていったら大変なことです。中々稼げません。きれい事では稼げません。これからだって寿都でがっちり、稼げるものってほかに

	<p>何がありますか。ないですよ。ここは勇気をもって皆で勉強しようとして国に協力しようとして、国に貸しを作るんです。弱ってるんだもの。この価値っていったら90億で足りないよって私は言いたいくらい。</p>
<p>沢村議員</p>	<p>いいですか。</p>
<p>議長</p>	<p>沢村議員。</p>
<p>沢村議員</p>	<p>この議論すれば、あたかも原発の廃棄物を寿都に来るという手を上げるというところまで議論しちゃうものだから、ちょっと言いづらいところもあるんだけど、やはり、手を上げる前に私共も北海道民で、北海道の自治体179あるんだけど、やはり北海道の条例で作っている、原発の廃棄物は持ち込まないというのがあるんだよね。だから、道民としての立場では、そこをクリアしないと、やはり私は、ちょっと順番が違うような気がするんです。ほかのところも結構あるんですよ。市町村でやっているところは、何町村もないんだけど、この前記事に載っていたよね。やはりいろんなクリアするところをクリアしてからいかないと私は駄目なような気がする。</p> <p>それから、議論しててもどうしても、ここに持ち込むというようなところに、どうしてもイメージいっちゃうものだから、それがやはり、いろんな連携をクリアしてから勉強会も含めてやって、それからでないといけないと思います。</p> <p>若手の二つを集めてやって、原発を入れて、将来がこうで財政的にも70億だ90億だっていても、私どもが誰も将来の財政の議論をしている訳でないですよ。そういう議論をした上で、あるべき寿都の姿に基づいて、やはりそういう財政が必要かと、じゃあどうするというのも議論していかなきゃいかなので、あたかも何かひっ迫した財政になって、そのところは原発じゃないと財政が持たないという議論になるとちょっと、時期尚早じゃないかなという感じがするものだから。もう少しやはり若手のところの意見も聞いて、我々も議会としていろんな議論をしながら積み上げていくということが大事だと思っているところです。</p>
<p>町長</p>	<p>現実問題ですね、5年だったか。今、財政でまとめた財政状況、5年経ったら基金がゼロになって、とんでもない。仕事ほとんどやめて、維持管理だけでやってくよって話になります。</p> <p>だから、産業振興も金出せません。プレミアム商品券も出せませんって話になる。</p>
<p>沢村議員</p>	<p>そういうね、言葉と状況になるかもしれないんだけどね、我々、財政の</p>

そういう話は今聞いただけであって、誰も資料も持ってないし、議論もしたあれ(経過)もないんですよ。でね、私も町長になったときにバックボーンでやっていたんだけど、あちこち歩いても、本当に寿都の町長は、金ない金ないってことばかり言ってるって。役場職員も議員も賃金ダウンをしながら、財政再建にそれぞれ町民にも利用料の問題だとか含めてやってきた訳なんで。だから私は、それがいいとは言わないけど苦しければ苦しいなりに、寿都町のあるべきその姿が、どういう形で町民にも協力願いながらやっていけるのか。町民だってプレミアムが欲しい訳じゃない、財政が厳しいのに。それは頑張ろうと今までもそうやって我慢してやってきたんだから、財政再建中心に。そういう議論もある程度して、じゃあこれから先、何が大きな金がかかるんだか、それからほかの町村と違って、私個人かも分からないんだけど、その先はどうなるか分からないんだけど、普通の交付税を含めて、他の町村からみれば一時期ではあるけれど、風力発電収入もあり、かつふるさと納税の収入もある訳なんですよ。これは明日、明後日にどうなるかは分かりませんが、そういうシミュレーションもしながら、やはり大きく金がかかるのであれば、財政議論の中でそういうところに、今やっている事業をもう一度見直して、どれだけ、そしてまた大きな金のかかるときには、寿都町としてどれだけの借金ができるのか、そういう議論もちゃんとしていかないと、その上で、よしこれは手をかけなきゃならないなというふうになったら全体でそれを協力してやっていくという形にしなければ。

例えば風力発電ができたって、岩宇と南後志で7か町村かな、町長、どう方針変わったか分かんないけど、寿都から含めていうと固定資産税ね7分の1ずつとして、各町村でやって寿都がどれだけの取り分なのかと、それはオープンにして、確かに7か町村なんだけど、まだ議論していないから、設置になるかどうか分からないんだけど。例えば寿都町に数多くの風力発電があつてその固定資産税がいっぱい入るのに、ほかのところはなんでやらなきゃならないんだという議論も無きにしも非ずだと思う。先ほども言ったように4000万とかいろいろ入るみたいなんだけど、寿都町にどれくらい入るのか、そういう試算も、計画がどのようになっているか分からないんで、中々試算は難しいって思うんだけど。いずれにしても財政問題はそういうことも含めた将来にわたる、我々議員と議論をした上でどのような方向性を見出していくかということも、本音をやはり議論していかないと、私も別になんかめがめが駄目だという訳ではないんだけど、やはり協力するにはするなりの議論をきちっとした上で自分たちが納得してそれを進めるか、というふうにしないと駄目だなとそういうふうに考えています。

町長

私が、なぜ急ぐかっていうとしつこいようですけど、うちは条件が悪い

地域だと思っています。2番3番にゆっくり手を上げて、これから協議しましょうと。2番3番に手を上げましたと、仮に、該当になりません。

今、目の前に、こういう議論はおかしい話だけど、美味しいものがこうぶら下がって、今食うか、後から食うか。後からならもうありません。つてなつたときに手遅れになる可能性も無きにしも非ず。

だから、最終処分場やるんじゃないで今、チャンス、一番のチャンスを勉強しなかったら、今の議論も合わせ技でやっていきましょうということが私は。全然しないっていうんじゃないですよ。当然、貧しくたって金がなくたって幸せな国ブータンはじめあるんですから。こういう議論も当然しなきゃならないし。だけど今の日本の生活の中で、ブータンを望む人っていうのは数少ないと思う。どっぷり浸かっていますから、贅沢に。その中でやはり議論を資料を集めて沢村議員がいうようにしなきゃ当然なりませんし、その中で皆さんの判断でどの道を選びますかって、当然民主主義ですから、やってかなきゃならない。それを合わせ技で私はやっていかないと、おかずになくなってしまう、いなくなってしまうという危険性もあるんで、一番じゃなきゃならんというのが私の胸の中にあるんです。相当叩かれます、これを無理してやっちゃうと。覚悟してやっていますから。

議長

町長の言うとおりに、第2段階、第3段階っていうのは、町民の考えもそうであろうし、あるいはまた、その延長の判断もあるだろうし、私は不可能だと思っています。ただ第1段階は、当然いけるのかなって。この段階で、風評被害を起こさせようとするのが起こりえますので。そこはプレス対応もしっかりしていかなきゃならないという、大きな壁もあるんです。今、町長が言ったとおりに。文献調査するっていうと、寿都はもう高レベル放射性廃棄物を誘致しようとしているとんでもない町だっていうようなこともやられかねない。そこはしっかり慎重にいかなきゃならないというのがありますけれど。私の勝手な予測ですけど、第2段階とか3段階は、場所的などころまで行くのはハードルが高くて、町長もおっしゃるとおり無理だろうなっていう気はしています。それは、自分たちで退くか、あるいは科学的に駄目になるか、そちらの方の確立の方がはるかに高いんだとは思ってはいます。

副議長どうですか。

副議長

大変難しい問題なんだけど、このまま何もしないで行ったらうちの町も予想どおりなくなってしまうかもしれない。いろんなことがあって。ただ今、チャンスがある中、いろいろ探りながら、前に進むっていうことも大事だと思うんですね。その辺をやはりこれから生きる世代の人たちと協議して合わせ技で進めていくことが必要だと私は思うけどね。

議 長	これから勉強会やる訳でしょう。研修会か。またその中でその雰囲気とか空気を今月中にやるところで。
町 長	やります。空気も含めて若手の意見を皆さんに御報告したいと思います。民間の若手の方々が、もしマイナス的な反応が多かったら、やるべきじゃないと思います。
	これから寿都を牛耳っていく、仕切っていく方々ですから。その各産業団体の若手の代表が今日出てくる訳ですから。後ろ向きな話になったら、絶対やるべきじゃない。
議 長	そういうことですね。
	その辺の空気も含めて次回まで。ここは堂々巡りで時間が経っていきますから。不確実な想定範囲でしか話ができないですから。街の人たちの話も聞いた中で、また、議会に提示して協議してもらいたいと思います。そういうことでよろしいですか。
	次、まだありますか。
	なければ、一つこの前宙ぶらりん中途半端になって結論出ていなかった副町長杯ってこと。職員のモチベーション上げるためにやりたいと設けたいという話だったんだけど。
越前谷議員	いいと思います。
議 長	私もいいと思うんです。副議長どうですか。
副議長	厳密に言えばやはり予算措置は問題にはなる。ただ役場の職員のモチベーションを上げたりいろいろなことをね、これから協力していくためにはそれも必要なのかなという思いでいます。私はとりあえず、副町長賞がいいのかどうかは分かんないんですけど、予算の中に総務費だったっけ職員研修費という項目があるんで、そこら辺を上手くちょっと、副町長自ら上手くやって、職員のやはりモチベーション上げていくような形でこういうのやればいいんで。皆さん同意していただければね。
	(異議なし)
議 長	木村親志議員どうですか。
木村親議員	はい。
幸坂議員	私はちょっと、どうなのかなって。違和感は感じています。税金使って

議 長	<p>そういうのって。町をきれいにするとかねそういうのも、悪いことではないけれど。今国道花壇とかやっていますよね。そういう形で町民と一緒にやるとかね。そういう形がどうなのかなって。</p> <p>風通しだとかモチベーション上げたり、交流っていう意味で。</p>
越前谷議員	<p>町としては、前回の話だと個人的にどうのこうのって話じゃなくチームとして頑張ってもらいたいという、そういうやり方でも検討しながら私はよろしいと思います。</p>
木村眞議員	<p>まず、やってみればいい。</p>
副議長	<p>職員研修費の中でだったら、どういう形で使うかは分からないけど。変なところから予算を持ってくるって訳にはいかないから。</p> <p>その範囲内で試験的にやってみるって。副町長は財政のプロなんだから。上手くやってください。</p>
理事者	<p>ありがとうございます。</p>
議 長	<p>そういうことで、よろしいですか。</p> <p>今日はほかにありますか、なければ今日はこれで閉じたいと思います。</p>